

12/27 (火) の発表

はじめよう、つづけよう。

「北海道スタイル」



～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 北海道スタイル

報道発表資料の配付日時 12月27日 (火) 11時00分

発表項目 (行事名)	「2022年を振り返って<胆振版>」及び「2023年に予想される動き<胆振版>」について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>胆振総合振興局が、2022年に取り組んだ主な事項(「2022年を振り返って」)及び、2023年に予想される主な取組事項等(「2023年に予想される動き」)について、別添のとおり取りまとめましたので、お知らせします。</p> <p>【FAX枚数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2022年を振り返って<胆振版> (21枚) ・2023年に予想される動き<胆振版> (5枚) <p style="text-align: right;">本票含め 計27枚</p>		
参考	<p>※大冊のため資料は2 in 1 サイズで送付しています。</p> <p>標準サイズの資料については、胆振総合振興局HP「報道発表」ページにPDFデータで掲載しています。</p> <p>【URL】 https://www.iburi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/sesaku/138240.html</p>		

報道(取材)に当たってのお願い	
他のクラブとの関係	同時配付

担当 (連絡先)	胆振総合振興局地域創生部地域政策課 地域政策課長 野々村 TEL(ダイヤルイン): 0143-24-9506 (内線: 2150)
-------------	--

2022年を振り返って

<胆 振 版>

2022年12月

胆振総合振興局



目 次

胆振の概況	
＜農業の概要＞	1
● 作物の生育状況等	
＜林業の概要＞	1
● 木材産業	
● 森林整備	
＜水産業の概要＞	1
● 漁業生産高の状況	
＜経済状況等の概要＞	2
● 経済状況	
● 雇用状況	
● 観光入込客数の状況	
＜主な災害の発生状況＞	3
● 大雨による被害（6月24日）	
● 大雨による被害（8月8日～8月9日）	
● 大雨による被害（8月16日）	
＜新型コロナウイルス感染症対応＞	4
● 新型コロナウイルス感染症の状況	
● 感染拡大防止に向けた振興局の取組	
地域政策課	5
● 「北海道いぶり五大遺産」魅力発信事業	
● 教育旅行誘致促進事業	
● 移住・定住、関係人口創出に向けた取組	
● 胆振総合振興局地域づくり交流会～ほっかいどうチャレンジピッチ～	
● 鳥インフルエンザウイルス感染拡大防止に係る陸上自衛隊災害派遣要請	
● 令和4年度北海道防災総合訓練	
● 市町・防災関係機関との典型強化に係る取組	
● 胆振・日高地方 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震津波対策推進会議の設置・開催	
● 第26回参議院議員通常選挙の執行	
● 北海道胆振東部地震からの復旧。復興の取組	
環境生活課	9
● TEAM「ゼロカーボンいぶり」の結成	
● いぶりガイアナイト2022の開催	
商工労働観光課	10

● 北海道経済対策胆振地方推進本部	
● ものづくり企業見学会	
● 胆振地域ものづくり企業のための技術・研究シーズ発表交流会	
● 令和5年（2023年）3月高校卒業予定者に対する「企業説明会」の開催	
● いぶり人財懇話会の開催	
● いぶり・6次観光促進事業の実施	
● いぶり・食ブランド推進事業	
農務課	13
● 高校における出前授業の開催	
● 令和4年度東北・北海道地域農業士研究会（北海道大会）の開催	
● 高病原性鳥インフルエンザの発生（4月16日、10月28日、11月7日）	
農村振興課	13
● 高校における出前授業の開催	
林務課	14
● 原油高騰による影響対策	
● 胆振東部地震に係る復旧の取組	
● ゼロカーボン×震災復興・森林再生	
● 林業担い手の育成・確保に関する取組	
水産課	15
● 太平洋海域漁業被害広域モニタリング（赤潮関係）の開始	
● ホッキガイで麻痺性貝毒発生	
● 「いぶりのお魚フェア」の開催	
● 北海道大谷室蘭高校にて食育授業を実施	
● 食べる・たいせつフェスティバル2022に出展	
森林室	17
● 第72階北海道植樹祭の開催	
● 第61回全国林業経営推奨行事で農林水産大臣賞受賞	
● 木育関係表彰の受賞	
室蘭建設管理部	18
● 道道登別港線 蘭法華トンネル通行止めの解除	
胆振教育局	18
● 令和4年度移動教育委員会及び北海道教育委員会と胆振管内教育関係者との意見交換の開催	

胆振の概況

< 農業の概要 >

● 作物の生育状況等

春先から6月中旬まで、気温はほぼ平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多く推移した。6月下旬から気温は平年より高かったが、7月から8月にかけてまとまった降雨が見られた。この降雨により降水量は平年以上となったが、気温が高く好天が続いたため各作物の生育は大きな影響を受けることなく推移した。水稻の管内作況指数は105の「やや良」となり、その他の農作物もおおむね平年並みの作柄であった。

< 林業の概要 >

● 木材産業

世界的な木材需要の高まりから輸入材価格の高騰（いわゆるウッドショック）が続いているなか、道産材の原木や品質の確かな建築材の安定供給体制が進んだ。

木質バイオマス資源の利用については、2017年（平成29年）に運転を開始した苫小牧バイオマス発電所が順調に稼働しており増加傾向にある中、2022（令和4年）年には日本製紙（株）の北海道工場勇払事業所において発電事業が開始されたことにより利用量がさらに増加した。

● 森林整備

管内一般民有林における人工林面積は約38,000haあるが、森林所有者は森林の多面的機能の発揮を図るため、国の補助事業を活用し計画的に森林の整備を行っており、2022年（令和4年）については植栽面積350ha、下刈り面積1,600ha、間伐等の保育面積500haを実施した。

また、2018年（平成30年）9月に発生した北海道胆振東部地震の被害森林において被害地造林を55ha、被害木整理を75ha、森林作業道の開設を21,000m実施した。

< 水産業の概要 >

● 漁業生産高の状況

令和4年の胆振管内の漁業生産について、数量は、サケが前年比185%ではあったが1,205トンと依然として低水準であり、シシャモは前年比7%の117キロと昨年を上回る記録的な不漁となった一方、ホタテガイが回復傾向にあり増加したことから、管内全体で4万2千トン（前年比106%）程度となる見込みである。

金額は、依然として新型コロナウイルス感染症が猛威を奮っていたものの、行動制限が緩和され、社会経済活動が回復してきたことや、ロシアによるウクライナ侵攻の影響により食品全体で値上げが進む中、ほとんどの魚種で単価が上昇したことから、管内全体で110億円（前年比139%）程度となる見込みである。

<経済状況等の概要>

● 経済状況

胆振管内の経済状況について、室蘭地域の粗鋼生産量は前年同期と比較してやや減少となっている。苫小牧地域の製紙品出荷実績は、前年同期と比較して増加しているが、コロナ前の水準には至っていない。原油処理実績及びエンジン出荷台数は、原油価格の高騰や半導体不足による国内の自動車製造台数の減少の状況下の中、ともに減少している。

また、消費動向の指標となる大型店販売額は、苫小牧地域は微増となっている一方、室蘭地域は減少している。

○ 室蘭地域主要経済指標（室蘭商工会議所公表資料）

・粗鋼生産量

2021年(令和3年)1月～9月累計：14,881百トン

2022年(令和4年)1月～9月累計：14,360百トン（前年同期比96.5%）

○ 苫小牧地域主要製造業生産動向（苫小牧商工会議所公表資料）

・製紙品出荷実績

2021年(令和3年)1月～9月累計：544千トン

2022年(令和4年)1月～9月累計：713千トン（前年同期比131.1%）

・原油処理実績

2021年(令和3年)1月～9月累計：4,966千キロリットル

2022年(令和4年)1月～9月累計：4,215千キロリットル（前年同期比84.9%）

・エンジン出荷台数

2021年(令和3年)1月～9月累計：8,621台

2022年(令和4年)1月～9月累計：6,065台（前年同期比70.4%）

○ 大型店販売額（苫小牧商工会議所、室蘭商工会議所調べ）

・苫小牧地域 2021年(令和3年)9月：1,363百万円

2022年(令和4年)9月：1,402百万円（前年同月比102.9%）

・室蘭地域 2021年(令和3年)9月：1,469百万円

2022年(令和4年)9月：1,338百万円（前年同月比91.1%）

● 雇用状況

胆振管内の雇用状況は、有効求人倍率（常用）、新規高卒者の就職内定率とも、前年同期を上回っている。

○ 胆振管内*の雇用情勢（2022年(令和4年)10月現在）

※ ハローワーク苫小牧・室蘭の管轄地域（日高町、平取町含む）

・有効求人倍率（常用）：1.42倍（前年同期 1.20倍）

・新規高卒者の就職内定率：79.5%（前年同期 78.9%）

● 観光入込客数の状況

2021年度（令和3年度）の胆振管内の観光入込客数は9,479.5千人で、前年度（9,311.3千人）と比べて168.2千人の増加（前年度比101.8%）となり、統計が新方式になった2010年度（平成22

年度)以降、新型コロナウイルス感染症の影響を受け最少となった2020年度(令和2年度)からわずかに回復した。

道の旅行割引制度「新しい旅のスタイル」や市町村独自の旅行割引制度などのプラス要因もあったが、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の適用もあり、コロナ禍以前の2019年度(令和元年度)(16,179.7千人)との比較では、41.5%減と、厳しい状況が続いている。

道外・道内別では、2019年度(令和元年度)との比較で、道外客の比率が34.7%から21.4%へ減少しており、遠方地への旅行を控える傾向が継続していると考えられる。

2021年度(令和3年度)の訪日外国人宿泊者数(延べ数)は2,800人泊(前年度比148.1%)で、前年度と比較して909人泊の増加となり、微増となったが、新型コロナウイルス感染症の発生により、2021年度(令和3年度)は新千歳空港の国際便が休止していたことや、検疫強化をはじめとする水際対策の強化措置を行うなど、多くの国や地域からの出入国制限が継続されたことが影響し、コロナ禍以前の2019年度(令和元年度)(820,057人泊)との比較では、99.7%減と依然として大変厳しい状況が続いている。

また、2022年度(令和4年度)4月～6月の登別温泉地区の観光入込客数は170.1千人で、前年度(54.5千人)と比べて115.6千人の増加(前年度比312.1%)となり、コロナ禍以前の2019年度(令和元年度)(248.0千人)との比較では31.4%減となっている。

2022年度(令和4年度)4月～6月の洞爺湖温泉の観光入込客数は96.4千人で、前年度(34.3千人)と比べて62.1千人の増加(前年度比281.0%)となり、同じくコロナ禍以前の2019年度(令和元年度)(165.5千人)との比較では41.8%減となっている。

どちらも前年度と比べ回復基調にあるものの、2019年度(令和元年度)の概ね6～7割程度にとどまった。

〈主な災害の発生状況〉

● 大雨による被害(6月24日)

前線を伴った低気圧が沿海州を発達しながら北上し、胆振・日高地方に南から暖かく湿った空気が流入したため、胆振中部・東部を中心に大雨となった。

室蘭市では、住家の一部破損被害が1件、及び空き家の一部破損被害が1件発生したほか、登別市、白老町の各地で道路の冠水が発生した。

● 大雨による被害(8月8日～9日)

日本海から北日本に伸びる前線に向かって暖かく湿った空気が流入したため、胆振中部・東部を中心に大雨となった。

この大雨により、伊達市では、床下浸水被害が2件発生した。また、同市内に自主避難所が開設され、6世帯12人が避難した。

● 大雨による被害(8月16日)

前線を伴った低気圧が日本海から近づき、北海道付近を通過したため、15日夜から16日にかけて断続的に雷を伴った激しい大雨となった。

この大雨により、豊浦町で1件の床上浸水被害、白老町、洞爺湖町及びむかわ町で各町2件の床下浸水被害が発生した。伊達市では170世帯343人、厚真町では19世帯30人を対象に避難指示、むかわ町では18世帯31人を対象に高齢者等避難を発令し、各市町において避難所が開設され、伊達市で4世帯16人、厚真町で7世帯12人、むかわ町で1世帯1人が避難した。また、豊浦町、壮瞥町及び洞爺湖町では自主避難所が開設され、豊浦町で2世帯5人が避難した。

〈新型コロナウイルス感染症対応〉

● 新型コロナウイルス感染症の状況

胆振総合振興局管内の新規感染者数は、2021年10月から年末にかけて小康状態を保っていたが、明けて2022年1月以降、年末年始の人の移動の活発化、これまでよりも感染しやすい特徴を持つ新型コロナウイルス（オミクロン株）への置き換わりにより増加し、2月には、新規感染者数の週合計が、1557人と山場を迎え、その後、一旦減少傾向が見られたが、3月から4月にかけては、下げ止まりの状態から増減を繰り返し、5月の連休明けには、1852人まで増加した。

7月頃からの第7波の流行では、更に感染力の強い変異株に置き換わりが進んだものと考えられ、8月には、新規感染者数の週合計は、3283人まで増加した。9月以降は、減少傾向が見られたが、10月中旬には増加に転じ、11月には、第7波のピークと同水準（3248人）まで増加しており、11月22日には、一日あたりの新規感染者数が、過去最多の764人まで増加した。

12月に入り、新規感染者数は減少傾向となっているものの、依然として高い水準が続いていることから、引き続き、市町や関係団体とも連携しながら、基本的な感染防止行動の徹底と対策の強化に努めている。

● 感染拡大防止に向けた振興局の取組

管内市町、関係機関と連携し、住民の皆様への感染予防対策や、注意喚起などの感染拡大防止に向けた様々な取組を実施。

○ 「新型コロナウイルス感染症対策胆振地方本部会議」の開催

管内市町及び関係機関と感染症に関する情報共有を行い、地域と連携しながら感染拡大防止に向けて必要な対策を講じるため、オンラインを併用し、「新型コロナウイルス感染症対策胆振地方本部会議」を実施。

○ 第三者認証の取得促進に向けた取組の実施

「第三者認証」の更なる普及のため、「ほっかいどう認証店応援クーポン」の運用開始に併せて胆振管内の飲食店（280店舗超）へ訪問し、制度を周知するとともに認証取得を促した。

○ スクールバス等への車内広告の掲載

通学によく利用されるバスを中心に、苫小牧市・室蘭市内の運行バスの他、規模が大きい停留所へ、接種の検討を促す広告を掲載した。

○ 若者向けのかわら版を発行

昨年度から発行している若者向けかわら版を発行。ワクチン接種に関する情報を掲載した。作成したかわら版は管内の大学や専門学校等への配布及び振興局のHPにて公開した。

○ 各種広報媒体を通じた呼びかけの実施

感染拡大を防ぐため、より多くの方々に必要な情報が届くよう、HPやSNSなどの媒体を通じて情報発信や注意喚起などの呼び掛けを実施した。

地域政策課

● 「北海道いぶり五大遺産」魅力発信事業

世界的・全国的にも価値のある地域資源（「洞爺湖有珠山ジオパーク」、「アイヌ文化」、「縄文遺跡群」、「むかわ竜」、「炭鉄港」）を『北海道いぶり五大遺産』と位置付けて、その価値や魅力を総合的に発信することで、観光客の誘致や地域の担い手確保などの関係人口の拡大を図った。

【2022年(令和4年)のPR等実施実績】

○ 北海道いぶり五大遺産のWebサイト作成

道内外に広く北海道いぶり五大遺産を周知するため、PC及びスマートフォンの両方に対応したWebサイトを作成。サイトは、五大遺産を中心に胆振の観光情報、移住情報等も掲載する予定。

○ 「しらおいポロトミンタラフェスティバル2022」への出展

ウポポイ開設2周年を記念して開催されたイベントにて、アイヌ文化をはじめとした胆振の魅力ある地域資源を発信するプロモーションを実施。

日 程：8月11日、12日

場 所：白老駅北観光インフォメーションセンター（ポロトミンタラ）

内 容：五大遺産関連グッズが当たる抽選会、いぶり五大遺産関連及び観光パンフレットの配布、オリジナルエコバッグ作り体験

○ 「JRヘルシーウォーキング」への出展

JR北海道が主催の「JRヘルシーウォーキング」において、「炭鉄港」を含む「いぶり五大遺産」や胆振の観光PRを実施。

日 程：7月10日、9月24日

場 所：(7月10日)室蘭市 JR室蘭駅
(9月24日)安平町 道の駅D51ステーション

内 容：いぶり五大遺産関連及び観光パンフレットの配布、石炭の重さ当てクイズ
(空知総合振興局との合同実施)

○ 「宮古市産業まつり」への出展

連携協定を結んでいる岩手県沿岸広域振興局との相互PRの取組の一環として、岩手県宮古市主催の「宮古市産業まつり」で、「いぶり五大遺産」や胆振の観光のPRを実施。

日 程：10月1日、2日

場 所：岩手県宮古市 宮古市民総合体育館

内 容：いぶり五大遺産関連及び観光パンフレットの配布、石炭の重さ当てクイズ、オリジナルエコバッグ作り体験

○ 「いぶり五大遺産関係者意見交換会」の実施

いぶり五大遺産の関連施設の関係者を繋ぎ、課題や成功事例を共有し、いぶり五大遺産の更なる魅力の向上・発信に取り組むための意見交換会の実施。

日 程：10月4日
 場 所：室蘭市内
 参加者：関連団体の担当者
 議 事：各団体の有する課題等の共有およびポストコロナを見据えた今後の展望と取組について

● 教育旅行誘致促進事業

北東北を中心とする道外からの教育旅行の誘致に向けて、いぶり五大遺産をはじめとする地域資源を活かしながら管内市町と連携し、岩手県へのトッププロモーションをはじめとしたPRを実施。また、充実した教育旅行実施に向けて、道外校と管内の学校との学校交流を支援。

【2022年(令和4年)の教育旅行事業実施実績】

○ 岩手県へのトッププロモーション

日 程：11月21日、22日
 場 所：岩手県盛岡市
 内 容：室蘭市、登別市、壮瞥町、洞爺湖町の各市町長が旅行会社、盛岡市内の中学校や専門学校、岩手県教育委員会に対し、教育旅行誘致に向けて、地域の魅力・取組をPR

○ 釜石中-壮瞥中教育旅行学校間交流

日 程：8月25日、30日、11月28日
 場 所：壮瞥町
 内 容：教育旅行で来道した岩手県の釜石中学校が、胆振管内の壮瞥中学校と学校間交流を実施。
 (8月25日)事前交流 両校の地元紹介、顔合わせ(オンライン)
 (8月30日)当日交流 壮瞥中学校の生徒による防災学習の説明(有珠山展望台)
 (11月28日)事後交流 当日交流の感想発表、釜石中学校の防災学習発表(オンライン)

● 移住・定住、関係人口創出に向けた取組

移住・定住プロモーション

○ 北海道移住・交流フェア2022への出展

東京交通会館で実施された「北海道移住・交流フェア2022」((一社)北海道移住交流促進協議会主催)へブースを出展し、来場者へ「いぶり暮らし」をPRした。(11月6日)

胆振地域でのワーケーション誘致

○ ワーケーションの首都圏向けプロモーション

(公社)北海道倶楽部の講演会の機会をとらえて、同倶楽部の会員等にワーケーション誘致に向けたPRを行った。(10月21日)

○ ワーケーション冊子の更新・増刷

胆振管内のワークスペースが増えたため、昨年作成した「IBURI×WORKATIONーいぶりクロスワーケーションー」の冊子を更新し増刷した。

【冊子内容】

- ・観光資源やアクティビティ、グルメなどを紹介
- ・モデルプランの紹介
- ・ワークスペースの紹介 など

● 胆振総合振興局地域づくり交流会～ほっかいどうチャレンジピッチ～

胆振管内で活躍する方々の取り組みを発信し、業種や地域を越えた重層的なネットワークづくりにつなげるため、「胆振総合振興局地域づくり交流会～ほっかいどうチャレンジピッチ～」を開催した。

日 程：11月30日(水)

開催方法：登別石水亭で開催（傍聴者はzoom参加）

参加者：地域づくりプレイヤー 8名

管内市町等の関係団体 15名

内 容：地域づくりプレイヤーからのショートプレゼン後、他の参加者を交えて意見交換を行った。

● 鳥インフルエンザウィルス感染拡大防止に係る陸上自衛隊災害派遣要請

4月15日、白老町内の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザの疑いのある事例が発生し、遺伝子検査の結果、4月16日（土）午前10時に高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜であることが確認された。感染拡大を防止するため、上記養鶏場において、約52万羽の殺処分及び防疫措置作業を迅速に完了する必要があることから、4月16日午前10時40分に、陸上自衛隊第7師団長へ災害派遣を要請した（要請に係る活動の終了に伴い、4月19日午前00時00分に災害派遣の撤収を要請）。

● 令和4年度北海道防災総合訓練

8月27日、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の発生を想定した令和4年度（2022年度）北海道防災総合訓練が実施され、管内では、メイン会場である伊達市及び白老町のほか、室蘭市、苫小牧市、登別市、豊浦町、壮瞥町、厚真町、洞爺湖町及びむかわ町が参加した。

訓練においては、高速バスによる広域避難やエクモカーによる救護訓練など、道として初めてとなる訓練も実施された。

● 市町・防災関係機関との連携強化に係る取組

近年の局地的な豪雨など被害が甚大化する傾向にある災害発生に備え、振興局と市町、防災関係機関が「顔の見える関係」を構築し、災害時において迅速かつ的確に連携・対応できるよう、書面（5月6日）及びWeb会議（5月20日）にて、防災担当者会議を実施した。なお、Web会議は、市町防災担当者を対象として、室蘭地方气象台との共催により実施し、同气象台による「防災情報説明会」も併せて実施した。

● 胆振・日高地方 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震津波対策推進会議の設置・開催

令和4年11月30日（水）に、津波避難対策特別強化地域に指定された自治体（日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法に基づき指定）における津波避難対策緊急事業計画の策定等が円滑に進むことを目的として、国、北海道、関係市町、関係機関による推進会議が設置され、同日、第1回の会議を実施した。

会議では、南海トラフ地震対策における他県の先行事例の紹介をするとともに、胆振・日高管内各市町における現在の取組状況や課題の把握など、津波避難対策に係る情報共有を行った。

● 第26回参議院議員通常選挙の執行

第26回参議院議員通常選挙が6月22日に公示され、7月10日に執行された。

北海道選挙管理委員会事務局胆振支所においては、コロナ禍での選挙であることを踏まえて、感染防止対策を行った上での啓発資材の配布や、SNSを活用した若年層への啓発活動等により投票参加の呼びかけに努めたが、結果として、管内の投票率（選挙区）は50.66%（全道53.98%）と前回の51.32%（全道53.76%）を下回った。

● 北海道胆振東部地震からの復旧・復興の取組

平成30年北海道胆振東部地震災害の発生から4年余が経過し、復旧・復興に向けた取組が着実に進められた。

道では、「平成30年北海道胆振東部地震災害からの復旧・復興方針」の下、国や関係機関等と連携を図り、公共土木施設等の復旧が完了したほか、被災森林の一日も早い復旧を図るため、「胆振東部地震森林再生実施計画」（令和4年3月策定）に基づき、路網整備、被災木の搬出、植林などの取組を実施した。

また、震災の記憶が風化しないよう被災地から広く情報発信することにより、震災の記憶や経験の次世代への継承、道内外の支援者との関係性を深めるなど、復旧から復興、その先の地域創生を見据えた取組を加速化させていくため、次の取組を実施した。

○ 2020オンライン座談会「胆振東部地震から4年、被災地の現在とこれから」

日 程：11月29日

場 所：厚真町総合福祉センター（Zoom開催と併用）

内 容：厚真町、安平町、むかわ町の復興に尽力されている方々から、被災地における活動状況についての事例発表後、各町長の参加の上、まちの魅力と可能性について事例発表者との意見交換を行った。

環境生活課

● TEAM「ゼロカーボンいぶり」の結成

共感で広げ、みんなで実践する「ゼロカーボン北海道」実現のための胆振アクションとして、TEAM「ゼロカーボンいぶり」を結成し、2月28日にキックオフセミナーを開催した。12月13日時点で112団体等が参加しており、ゼロカーボン北海道に関する普及啓発を実施したほか、チームメンバーの交流会などを開催した。

● いぶりガイアナイト2022の開催

「北海道クールアース・デイ」の取組として、7月7日に「いぶりガイアナイト2022」を開催した。

○ 「ステイホームガイアナイト」の呼びかけ

地球温暖化対策の取組の実践に向け、各家庭において電気照明を消してローソクの灯りの中で地球環境への思いを巡らせてもらうよう呼びかけるため、地域コミュニティFM（FMびゅー）による広報並びにむろらん広域センタービルにおけるパネル展示及びエコキャンドルの配布等を行うとともに、CO₂削減「ライトダウンキャンペーン」として、関係機関と連携し、室蘭のシンボルである「測量山」と「白鳥大橋」のイルミネーションを消灯した。

○ 「いぶりガイアナイトギャラリー」の開催

11月7日から11日まで、むろらん広域センタービルにおいて、「#いぶりガイアナイト」でSNSへの投稿を呼びかけ応募のあった「ステイホームガイアナイト」の写真等を展示するなど、地球温暖化防止に係る啓発を行った。

商工労働観光課

● 北海道経済対策胆振地方推進本部

地域の実情に合わせた緊急的な経済対策の効果的な実施、道民の方々が安心して暮らし続け、事業者の方々の成長につながる取組を支援する施策の展開を図るため、「北海道経済対策胆振地方推進本部」を設置。

7月20日に第1回目となる本部会議を開催して以降、12月までに計7回の本部会議を開催、胆振管内の各業界の意見の収集を行ったほか、道の経済対策に関する施策の情報共有、各業界への周知を行った。

● ものづくり企業見学会

地元「ものづくり」企業の活動や仕事に対する理解を深めるとともに、就職意欲の向上を図るため、管内高等学校生徒等を対象に、現場見学会を実施。

日 程：7月27日

参加者：室蘭東翔高校、室蘭工業高校（生徒7名 教員1名 計8名）

見学先：(株)キメラ、(株)パロマ北海道工場

日 程：8月3日

参加者：厚真高校、苫小牧工業高校、苫小牧高等商業学校、苫小牧総合経済高校（生徒14名 教員4名 計18名）

見学先：(株)ダイナックス苫小牧工場、(株)松本鐵工所

● 胆振地域ものづくり企業のための技術・研究シーズ発表交流会

管内のものづくり企業の開発力・生産技術力の向上を図るため、室蘭工業大学と道総研工業試験場の技術・研究シーズを紹介する発表交流会を開催。

日 程：12月5日

会 場：苫小牧テクノセンター会議室 ※オンライン配信併用

参加者：20企業・団体 34名

● 令和5年(2023年)3月高校卒業予定者に対する「企業説明会」の開催

企業活動や仕事に対する理解を深めるとともに、職業選択の視野を広げ、地元就職の促進・定着を図るため、来春高校を卒業予定の生徒を対象に、地元企業等による企業説明会を3年ぶりに開催。

室蘭会場

日 時：6月27日 13:30～16:00

会 場：蓬峯殿（室蘭市）

参加者：生徒数212名（10校）、企業・団体数63社・団体

苫小牧会場

日 時：6月29日 13:30～16:00

会 場：グランドホテルニュー王子（苫小牧市）

参加者：生徒数316名（14校）、企業・団体数63社・団体

● いぶり人財懇話会の開催

胆振管内の幅広い産業で人手不足が深刻化する中、関係機関が緊密に連携し、産業人材の確保に向けた効果的な施策の推進を図るため、産業団体、行政機関、教育機関等による情報共有や意見交換を行う「いぶり人財懇話会」を2年ぶりに開催。

開催地	伊達市	室蘭市	登別市	苫小牧市
日時	10月21日	10月24日	10月27日	12月12日
場所	だて歴史の杜カルチャーセンター講堂	室ガス文化センター大会議室	登別市民会館大会議室	苫小牧市文化交流センター講習室
関係市町	伊達市、豊浦町、洞爺湖町、壮瞥町	室蘭市	登別市	苫小牧市、白老町、厚真町、安平町、むかわ町

● いぶり・6次観光促進事業の実施

○観光プロモーション（一般）

<熊本県向けプロモーション>

日時：6月27日

内容：国内の旅行市場に対し、北海道への興味や旅行意欲を刺激するために開催した北海道観光情報交換会（北海道観光振興機構主催）に胆振総合振興局も参加し、熊本県内のメディアや旅行会社に胆振管内の観光情報を説明。

<長野県向けプロモーション>

日時：8月26日～27日

内容：国内の旅行市場に対し、北海道への興味や旅行意欲を刺激するために開催した北海道観光情報交換会（北海道観光振興機構主催）に胆振総合振興局も参加し、長野県内の個別のメディアや旅行会社に胆振管内の観光情報を説明。

また、イオンモール松本に観光ブースを構え、買い物客を対象としたプロモーションを実施。

<北海道ハイウェイ Show Area 2022 in 有珠山 SA>

日時：9月17日～18日

内容：NEXCO 東日本室蘭管理事務所と連携し、有珠山 SA（上り線）において、胆振管内の特産品販売や観光情報案内、パンフレット配布による観光のPRを実施。

<ツーリズム EXPO ジャパン 2022 in 東京>

日時：9月22日～25日

内容：東京ビックサイトで開催された世界最大級の観光産業イベントである「ツーリズム EXPO ジャパン」への出展（北海道観光振興機構が北海道ブースとして出展）に胆振総合振興局も参加し、道内各地域と連携を図りながら、北海道及び胆振への旅行需要喚起のため国内外の旅行会社など観光業界関係者向けに商談会を実施するとともに、一般消費者向けにパンフレット配布などによる観光プロモーションを実施。

<観光素材商品化促進事業（モニターツアー事業）>

日時：11月14日

内容：観光産業に詳しいメディア関係者を招請し、胆振地域における観光素材を体験・視察してもらい、独自の視点からの観光素材の発掘や磨き上げ、更なる発信強化のための意見、感想を聴取するモニターツアーを実施。

<メリーイブリマス！胆振特産品が当たるクリスマスイブキャンぺーン>

日 時：11月22日～12月22日

内 容：胆振地域の知名度の向上及び胆振地域への誘客を目的として、管内の魅力的な特産品や観光地の情報を発信している SNS（Facebook、Instagram、Twitter）を活用したキャンペーンを実施。

○観光プロモーション（教育旅行）<東北（盛岡市）向けプロモーション>

日 時：11月21日～22日

内 容：室蘭市長、登別市長、壮瞥町長、洞爺湖町長及び振興局長らが、盛岡市内の旅行会社向けに胆振管内での教育旅行のコンテンツについてPRするとともに、盛岡中学校長会に出席し、ニーズについての聞き取り調査などを実施。

<東京・大阪向けプロモーション>

日 時：12月6日（大阪）、7日（東京）

内 容：東京・大阪で実施された北海道教育旅行相談会に参加し、学校関係者と旅行会社向けに胆振管内の観光情報等の提供、意見交換等を実施。

● いぶり・食ブランド推進事業<いぶりのグルメ in 北海道どさんこプラザ札幌店>

日 時：2月2日～8日

内 容：胆振管内の特産品のPR及び販路拡大を図るため、北海道どさんこプラザ札幌店において、地域の特産品を販売。（14社81商品）

<胆振・日高 食のブランド・ステップアップ相談会>

日 時：9月22日

内 容：胆振及び日高管内の食関連事業者を対象に、百貨店のバイヤーや通信販売の仕入担当者などの食の専門家を招き、商品開発や改良、販路開拓、経営相談などに関する相談会を開催。

<胆振エリア地域ワークショップ>

日 時：12月6日

内 容：胆振の食関連事業者を対象に、事業者間におけるコラボ商品の開発、地域・商品のブランディングをテーマに、外部講師を招いての講演会とグループワーク（模擬コラボ開発）を実施し、事業者間のさらなる連携強化とネットワーク形成を目指したワークショップを開催。

<胆振・日高 食のオンライン商談会>

日 時：12月6日、8日

内 容：胆振及び日高管内の食関連事業者を対象に、バイヤーとのオンラインでの地域産品の販路拡大を図る商談会を開催。

<しりべし・いぶり・ひだかフェア in 新宿高島屋>

日 時：11月2日～8日

内 容：原油高・原材料高の影響を受ける地域の幅広い食関連事業者を支援するとともに、地域の魅力を発信するため、後志総合振興局、胆振総合振興局及び日高振興局の3局合同で、新宿高島屋において地域の特産品や限定商品（冷凍旨飯）を販売する地域フェアを開催。

農務課

● 高校における出前授業の開催

道では、道民全体で食べ物の大切さ、食やそれに携わる方々への感謝、環境保全への意識を共有し、それぞれの立場で具体的な行動を実践しようと「どさんこ愛食食べきり運動」を展開。家庭や外食での食べ残しを減らすため地元高校(大谷室蘭高校)への出前授業を行った。授業の中で講師として、道の駅ウトナイ湖の佐藤氏を招き講演及び管内の食材(ホッキ貝、豚肉)を使用した「おむすび」の調理・試食を行った。

● 令和4年度東北・北海道地域農業士研究会(北海道大会)の開催

東北・北海道地域農業士研究会(北海道大会)実行委員会主催により、8月29日及び30日に令和4年度東北・北海道地域農業士研究会を開催した。

初日は「農業の可能性を求めて」をテーマとして、基調講演及びパネルディスカッションを行い、情報交換会では、地域農業の振興と担い手育成活動の在り方について有意義な意見が交わされた。

2日目は、4コースに分かれて現地視察を実施した。

○ 「令和4年度東北・北海道地域農業士研究会」

日 程：8月29日～30日

場 所：洞爺湖町(洞爺湖万世閣ホテルレイクサイド)

出席者：東北・北海道地域の農業士等、各県関係者 164名

● 高病原性鳥インフルエンザの発生(4月16日、10月28日、11月7日)

4月16日に白老町、10月28日に厚真町、11月7日に伊達市の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザが発生し、発生農場の防疫措置を実施した。

農村振興課

● 高校における出前授業の開催

未来を担う子供たちが「食」の大切さや農村環境の保全の必要性、農業農村整備の役割などを学習し理解が深められるよう出前事業を実施した。

日 程：9月28日

場 所：大谷室蘭高等学校

参加者：生徒25名

林務課

● 原油高騰による影響対策

- 管内事業者への各種補助金及び融資などの各種支援制度の周知、手続きの支援

● 胆振東部地震に係る復旧の取組

- 治山事業による復旧工事の実施
- 被災森林の土壌調査の実施
- 被災木を活用した彫刻作品を制作する「樹憶(きおく)プロジェクト(第2回)」の実施
実施内容：復旧工事現場から搬出された倒木を活用した彫刻の制作と被災地への寄贈展示

12月1日 胆振総合振興局 2作品

12月8日 厚真町 3作品(役場庁舎)、安平町 6作品(追分公民館他)、
むかわ町 4作品(穂別町民センター他)

● ゼロカーボン×震災復興・森林再生

- 被災木物産展の開催・被災地発信

5月28日 苫小牧市(苫東・和みの森)

北海道植樹祭会場にて、被災木を活用した木製品販売やノベルティ配布等実施

- 住民が参加する緑化・植樹イベントの開催

10月22日 厚真町吉野地区 地域住民等24名

さくら植樹会を実施

● 林業担い手の育成・確保に関する取組

- 胆振地域林業担い手確保推進協議会の開催
- 高校生を対象とした林業現場体験バスツアーの実施

7月15日 壮瞥高校 1年生16名

伐採作業現場及び工場等の見学(伊達市、苫小牧市)

9月7日 追分高校 1年生12名

胆振東部地震被災森林、伐採作業現場及び工場等の見学(厚真町、苫小牧市)

10月7日 穂別高校 1年生7名

胆振東部地震被災森林及び被災木整理作業現場等の見学(むかわ町穂別、厚真町)

10月21日 厚真高校 1年生21名

胆振東部地震被災森林、伐採作業現場及び工場等の見学(厚真町、苫小牧市)

- 北海道立北の森づくり専門学院生に対する地域実習等の実施
- 胆振林業青年部の活動への支援

水産課

● 太平洋海域漁業被害広域モニタリング（赤潮関係）の開始

令和3年9月下旬に北海道太平洋東部で発生し、全道で約82億円の被害をもたらした赤潮（カレニア・セリフォルミス）の発生原因や原因プランクトンの生物特性などの早期究明に向け、令和4年1月から、全道海域で採水・分析によるモニタリング調査を開始。

胆振管内においても、月1回2箇所ですら表層、中層の2サンプルを採取し、分析機関でプランクトン量などを分析。（※ 今年には道内での大規模な赤潮発生なし）

● ホッキガイで麻痺性貝毒発生

令和4年7月4日にいぶり中央漁協で漁獲されたホッキガイの麻痺性貝毒が国の基準値を超え、太平洋西部海域（登別～鶴川）ですでに出荷された貝の自主回収及び出荷規制を実施。（規制は8月2日に解除）

道内での麻痺性貝毒によるホッキガイの出荷規制は1989年以来33年振り。

● 「いぶりのお魚フェア」の開催

胆振管内で漁獲される水産物の魅力発信や魚食普及拡大の取組の一環として、振興局独自事業により、「いぶりのお魚フェア」を企画。

管内の「中食（なかしょく）」（調理済み食品を購入し家庭内で食べる形態）需要に対応した「いぶりお魚おそうざいフェア」、室蘭市及び近郊の一般消費者を対象とした「いぶりお魚クッキングスクール」を開催した。

○ 「いぶりのお魚おそうざいフェア」

日 程：令和4年2月6日（日）、3月6日（日）（コープさっぽろ地元市にあわせて開催）
令和4年4月1日以降毎日

場 所：コープさっぽろ しがイースト店

令和4年4月1日以降 伊達店、東むろらん店、ステイ店、パセオ川沿店追加

内 容：胆振管内で漁獲された新鮮な魚介類を使用したお惣菜を、「魚屋お惣菜コーナー」において販売した。

○ 「いぶりのお魚クッキングスクール」

日 程：令和4年10月29日（土）

場 所：北斗文化学園インターナショナル調理技術専門学校

参加者：12名

内 容：一般消費者に「いぶりのお魚」を使用した家庭向け料理の調理方法を学んでいただくとともに、「いぶりのお魚」の魅力や魚食普及の取組について紹介した。

あわせて、魚食普及に関するアンケートを実施した。

◆クッキングレシピ2品

「マツカワカレイの和風ムニエル バターライス添え」

「北寄貝のフルーツサラダ 粒マスタードドレッシング」

● 北海道大谷室蘭高校にて食育授業を実施

胆振管内漁業士会（事務局：産業振興部水産課）では、毎年、北海道大谷室蘭高校からの要請により、食育出前授業を実施しており、令和4年9月、今年の出前授業を実施。

食育授業では、漁業士が生徒に対し「胆振管内の水産業とホッキガイ漁業」についての講義を行うとともに、ホッキガイのむき方の実演、指導を行った。

● 食べる・たいせつフェスティバル2022に出展

胆振管内漁業士会（事務局：産業振興部水産課）では、地域において食育・魚食普及活動に取り組んでおり、令和4年9月、10月に胆振管内で開催されたイベントに出展。

室蘭会場（9月）では、「ホタテの殻剥き体験」を行い、漁業士が参加者の子供たちにホタテの剥き方を実演・指導し、参加者が剥いたホタテを加熱調理して提供した。

苫小牧会場（10月）では、胆振太平洋ホッキ貝振興協議会と共催で「ホッキの殻剥き体験」を行い、漁業士が参加者の子供たちにホッキの剥き方を実演・指導し、参加者が剥いたホッキを加熱調理して提供した。

森林室

● 第72回北海道植樹祭の開催

森林づくりの意義や森林の持っている大切さを広く普及啓発するため、昭和 25 年から毎年開催していたが、新型コロナウイルス蔓延の影響で令和 2 年、3 年と中止が続いていた。令和 4 年(2022 年)は、昨年全国育樹祭が開催された苫小牧市の「苫東・和みの森」で開催し、継続して森を守り育てていくことの大切さや木育を発信した。

日 程：5 月 28 日

場 所：苫東・和みの森（苫小牧市）

内 容：式典、参加者及び代表者による植樹、木育マイスターによるワークショップ など

参加者：約 500 名

● 第61回全国林業経営推奨行事で農林水産大臣賞受賞

受賞者：桔梗原 和夫氏（白老町字虎杖浜）

功 績：白老町で50年以上にわたり原木シイタケを生産・販売を営む傍ら、約24haの山林経営を行う林家。山林はシイタケ原木の確保を目的にミズナラ人工林が主体で、下刈り等は積極的に自家労働で行っている。長きにわたり森林組合長を務め得た知識や技術、豊富な経験を活かし、模範的な林業経営を実践し、地域の森林整備やシイタケ栽培技術・林業技術の普及に貢献していることが高く評価された。（H26北海道指導林家に認定）

主 催：公益社団法人 大日本山林会

表彰式：11月10日（東京都）＊秋篠宮皇嗣殿下ご臨席の下開催

● 木育関係表彰の受賞

○ 北海道社会貢献賞（森を守り緑に親しむ功労者）

受 賞 者：特定非営利活動法人ウヨロ環境トラスト（白老町）

功 績：永年にわたり緑化の推進・指導・森林の環境教育及び森林の保全などに尽力し、若しくは貢献し、その功績が極めて顕著であり他の模範となるもの。（本年度 2 名 6 団体受賞）

表 彰 式：12 月 20 日

○ 緑化活動啓発作品コンクール

受賞作品：ポスター原画小学校の部 作品名「みんな仲よし森の中」

「最優秀賞」並びに「北海道森林組合連合会会長賞」受賞

受 賞 者：むかわ町立宮戸小学校 5 年 斉藤 雅莉佳さん

表 彰 式：12 月 19 日

コンクールの概要：公益社団法人北海道森と緑の会が主催。北海道内の小学校、中学校、高等学校の児童・生徒を対象に、森林や緑に関するポスター原画、標語を募集し顕彰することにより、郷土の森林や緑の大切さ、緑化活動への参加など、広く啓発することを目的として実施されている。

室蘭建設管理部

● 道道登別港線 蘭法華トンネル通行止めの解除

コンクリートのひび割れとコンクリート片の落下が確認されたため、2019(平成31年)1月25日から通行止めとしていた道道登別港線蘭法華トンネルが、補修工事が終了し3年10ヶ月ぶりとなる、2022年(令和4年)11月29日に開通した。

胆振教育局

● 令和4年度移動教育委員会及び北海道教育委員会と胆振管内教育関係者との意見交換の開催

北海道教育委員会では、毎年1回、札幌市以外の地域で移動教育委員会を開催しており、今年は8月25日に白老町において開催し、併せて、北海道教育委員会教育長・教育委員と胆振管内教育関係者との意見交換を行った。

移動教育委員会では、「令和3年度北海道教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書」や「学校における1人1台端末の活用状況」などについて協議し、意見交換では、「地域と連携した教育活動について」をテーマに話し合った。

○ 令和4年度移動教育委員会

日 程：令和4年(2022年)8月25日 13:30～14:55

場 所：白老町中央公民館

出席者：北海道教育委員会教育長・教育委員

○ 北海道教育委員会と胆振管内教育関係者との意見交換

日 程：令和4年(2022年)8月25日 15:10～17:30

場 所：白老町中央公民館

出席者：北海道教育委員会教育長・教育委員、市町教育委員会教育長、胆振管内学校関係者、胆振教育局長等

2023年に予想される動き

<胆 振 版>

2022年12月

胆振総合振興局



<目次>

地域政策課	1
● 教育旅行誘致促進事業	
● 移住・定住、関係人口創出に向けた取組	
● 第20回統一地方選挙の執行	
商工労働観光課	2
● いぶり観光・教育旅行誘致促進事業の実施	
● いぶり・食ブランド推進事業の実施	
林務課	2
● 原油高騰による影響対策	
● 胆振東部地震に係る復旧の取組	
● ゼロカーボン×震災復興・森林再生	
● 林業担い手の育成・確保に関する取組	
水産課	3
● 漁業権の一斉更新	
● 地域住民への地元食材PRの実施	
● 「第42回全国豊かな海づくり大会 北海道大会 2023年 in 厚岸」の開催	

地域政策課

● 教育旅行誘致促進事業

○ 本州からの教育旅行生との交流の実施

地域への愛着の醸成と関係人口の創出のため、北東北を中心とした本州からの教育旅行生と地元の中高生がオンライン及び現地で交流。

○ 北東北を中心とした本州への教育旅行プロモーションの実施

北東北、関東地域の旅行会社及び中学校等に対して、胆振での教育旅行や観光素材のPRを実施。

● 移住・定住、関係人口創出に向けた取組

移住・定住プロモーション

○ JOIN移住・交流&地域おこしフェア2023への出展

東京ビックサイトで開催される「JOIN移住・交流&地域おこしフェア2023」((一社)移住・交流推進機構主催)へブースを出展し、来場者へ「いぶり暮らし」をPRする。(1月15日)

○ 移住セミナーの開催

胆振管内の市町と連携し、オンラインによる移住セミナーを開催する。

日 程：1月以降

● 第20回統一地方選挙の執行

令和5年4月9日に、北海道知事選挙及び北海道議会議員選挙が執行される。

また、令和5年4月23日に下記市町の首長選挙、議会議員選挙またはその両方が執行される。

○ 執行予定市町

・ 首長選挙

室蘭市、伊達市、壮瞥町

・ 議会議員選挙

室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、壮瞥町、厚真町、洞爺湖町

商工労働観光課

● いぶり観光・教育旅行誘致促進事業の実施

観光需要の回復に向け、地域資源を活用しながらインバウンドを含む観光客や道外からの教育旅行の誘致を図る。

<北海道ハイウェイ Show Area 2023 in 有珠山SA>

日 時：令和5年9月17日～18日

場 所：道央自動車道 有珠山SA（上り線）

<ツーリズムEXPOジャパン2022 in 大阪>

日 時：令和5年10月26日～29日

場 所：インテックス大阪

● いぶり・食ブランド推進事業の実施

胆振管内の食の魅力を上向きさせ、道内・道外への情報発信を強化するため、食の磨き上げ、魅力発信に関する事業を実施する。

<「北海道どさんこプラザ札幌店」における「いぶりフェア」の開催>

日 時：令和5年2月1日～7日

場 所：北海道どさんこプラザ札幌店

<関西圏内での「関西いぶりフェア」の開催>

日 時：未定（令和5年2月下旬を想定）

場 所：関西圏

林務課

● 原油高騰による影響対策

- ・管内企業への個別訪問等による影響調査の実施
- ・各種補助金及び融資などの各種支援制度の周知、手続きの支援

● 胆振東部地震に係る復旧の取組

- ・治山事業による復旧工事の実施
- ・胆振東部地震森林再生実施計画に基づく森林の復旧及び路網整備の実施

● ゼロカーボン×震災復興・森林再生

- ・被災木物産展の開催・被災地発信
- ・住民が参加する緑化・植樹イベントの開催
- ・企業・団体による森林再生サポート

● 林業担い手の育成・確保に関する取組

- ・胆振地域林業担い手確保推進協議会の開催

- ・高校生を対象とした林業現場体験バスツアーの実施
- ・北海道立北の森づくり専門学院生に対する地域実習等の実施
- ・胆振林業青年部の活動への支援

水産課

● 漁業権の一斉更新

共同・区画・定置の各漁業権については、一定期間（共同10年、区画・定置5年）で見直しを行うこととなっており、令和5年度は各漁業権の一斉更新の時期を迎える。

現在、道が定めた「漁業権切替方針」に基づき漁場計画を策定中であり、今後、各漁業権の新たな免許に向けて事務を執り進める。

【次期漁業権】

- ◆ 8次海面（内水面）共同漁業権：令和5年9月1日～令和15年8月31日
- ◆ 15次海面（内水面）区画漁業権：令和5年9月1日～令和10年8月31日
- ◆ 15次定置漁業権：令和6年1月1日～令和11年12月31日

● 地域住民への地元食材PRの実施

胆振管内で漁獲される水産物の魅力発信や魚食普及の取組の一環として、振興局独自事業により、地域住民への地元食材PRを企画。

- ・魚食普及を図るため、室蘭市及び近郊の一般消費者を対象とした「いぶりのお魚クッキングスクール」を開催する。（継続）
- ・地域での消費拡大を図るため、「地元で食べよう!いぶりのお魚」と称し、スーパーで胆振産水産物を使用したお惣菜を販売、PRする。（継続）
- ・地域で漁獲される「すけとうだら」の食品効果をPRするとともに、地位委で、継続的に、より多く消費してもらうための仕組みの検討・構築する。（管内こども食堂での料理提供などを予定）（令和5年度新規）

● 「第42回全国豊かな海づくり大会 北海道大会 2023年 in 厚岸」の開催

令和5年9月17日（日）、北海道では昭和60年の湧別町での第5回大会以来の開催となる「第42回全国豊かな海づくり大会 北海道大会 2023年 in 厚岸」が、厚岸町にて開催予定。

大会開催までの期間、胆振管内を含め道内各地で、記念リレー放流や魚食・食育普及活動など、大会に関連した活動が行われる予定である。